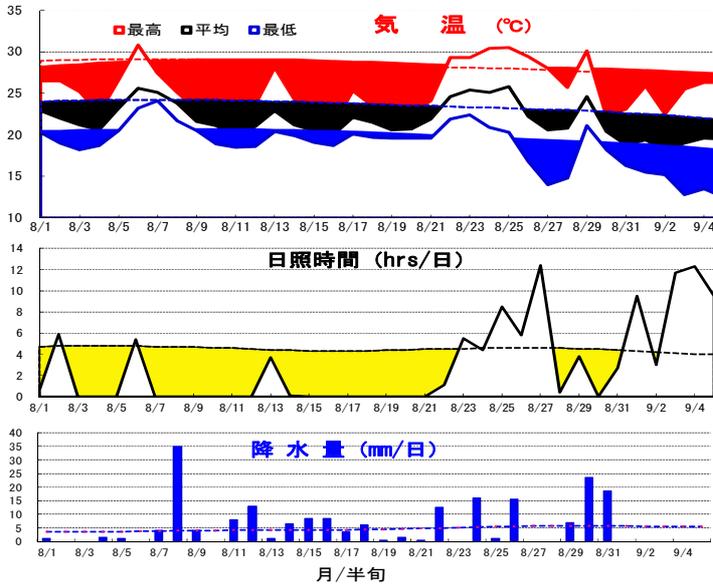


～日照不足回復も、低温傾向、登熟状況に注意し適期刈取を！！～

## 1 気象経過 (8月～9月5日:古川)

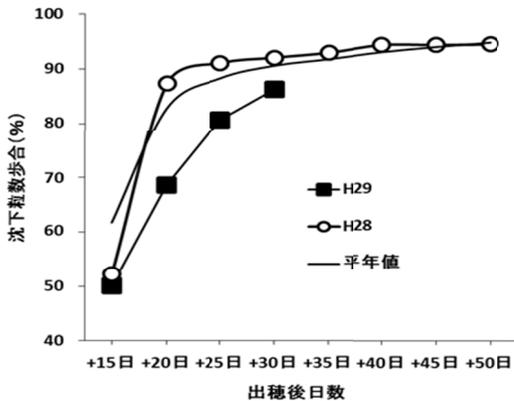


気温・日照の平年差比(°C)(時間%)

月旬	平均	最高	最低	日照時間
8月上旬	22.7	25.8	20.5	11.9
平年差・比	▲ 1.5	▲ 3.2	▲ 0.2	25%
8月中旬	21.0	23.4	19.4	3.8
平年差・比	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 1.1	9%
8月下旬	22.7	27.5	18.8	44.6
平年差・比	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.8	89%
<b>8月の平均・積算</b>	<b>22.2</b>	<b>25.6</b>	<b>19.5</b>	<b>60.3</b>
平年差・比	▲ 1.5	▲ 2.8	▲ 0.7	43%
9/1～9/5	19.1	25.3	13.9	46.0
平年差・比	▲ 3.1	▲ 1.6	▲ 4.8	223%

- ・ 出穂後 8月 21 日まで低温傾向に推移, その後一時回復, 9月も低温傾向
- ・ 8月の日照時間が平年比 43%, その後回復
- ・ 8月の降水量はやや多雨

## 2 登熟状況 [5月10日植ひとめぼれ 古試]

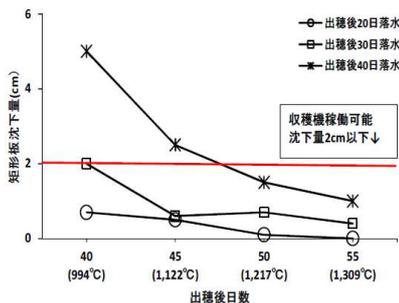


- ・ 出穂後の低温寡照で登熟が遅れている。
- ・ 出穂後 30 日の沈下粒数歩合は, 86.4%と平年に比較して 5%程低い。
- ・ 9月上旬現在で沈下粒歩合は 7~8 割程度と思われる。
- ・ 晩生品種や直播圃場は, 通常移植より, 更に遅れており, 圃場間差が大きくなっている。
- ・ 各地域で出穂直後の風による褐変症状が散見される。

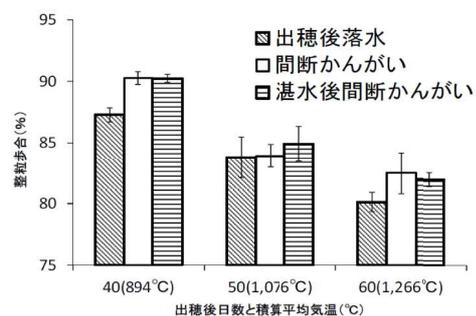
## 3 今後の管理

### (1) 水管理

- ・ 直播や登熟が遅れている圃場は, できる限り落水を遅くして登熟を高める。
- ・ 出穂後 30 日に落水してもコンバイン収穫に支障の無い程度の地耐力になる。



落水時期別地耐力の推移(平成24年)



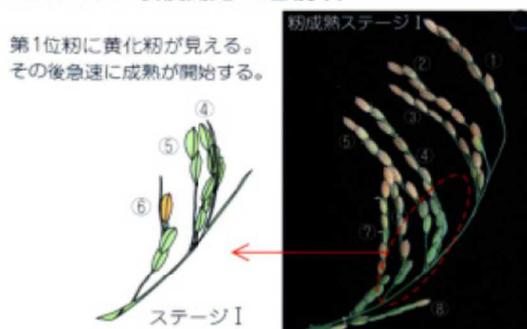
## (2) 病害虫の発生状況と防除

- ・ 8月下旬の防除所巡回では、軽度の枝梗いもちが確認されたのみで、限定的である。
- ・ 例年発生が見られる圃場では、穂いもちの発生が見られるものの、程度は軽微である。
- ・ 遅れている圃場や葉色の濃い圃場では穂いもちの発生状況に注意し、防除を徹底する。
- ・ 防除所調査によると紋枯れ病の発生地点率は 84.1%と平年より高いが、上位への進展は緩慢で発病は平年並みである。
- ・ 直播圃場では、一部でイネツトムシの被害が散見される。

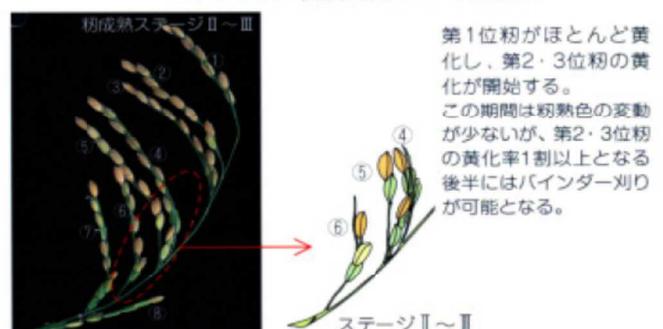
## (3) 適期刈取

- ・ 今年は、登熟の圃場間差が大きいので、圃場を見て全籾数の90%が黄化し、先端の1/3程度の黄化を確認して刈取作業を速やかに進める。
- ・ 出穂後の積算平均気温は、9月5日現在古川で800℃程度となっている。
- ・ 籾数が少ない圃場では、成熟時期が早まるので、刈取時期に注意する。(褐変による不稔等)
- ・ 枕地を中心に倒伏が散見され、台風の発生等により倒伏が助長される懸念があるので品質を維持するため、早めに刈取作業を進める。

コンバイン収穫開始14日前頃



コンバイン収穫開始10～5日前頃



コンバイン収穫適期



### 〔参考〕今後の気象予報

#### 【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)】

【気温】	東北地方	30	40	30
【降水量】	東北太平洋側	20	30	50
【日照時間】	東北太平洋側	30	40	30

#### ◆週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目	東北太平洋側	70	20	10
2週目	東北太平洋側	20	50	30
3～4週目	東北地方	20	40	40

■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多